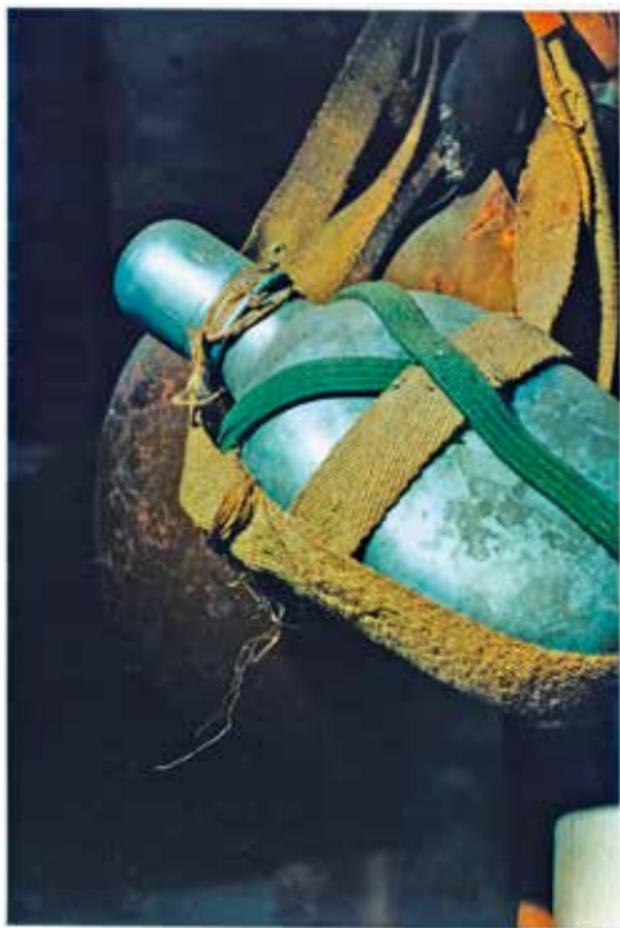


蔵 KURA



田附 勝
Masaru Tatsuki



津南学

第11号

津南学 第11号 目次

グラビア

蔵
春を待つ雪墓
苗場山麓を歩く―中津川左岸散策道―

田附 勝

津南学事務局

巻頭言

昔の人の知恵と技

鳥田敏夫

追悼

追悼 萩原光之
津南を愛した萩原光之氏
情熱の歌人 萩原光之先生を偲んで
萩原先生との出会い
心豊かで柔和な巨人 萩原光之氏を想う
萩原光之氏を語る

丸山直子…………… 8
鳥田眞之…………… 13
山田龍一…………… 16
つるたとよ子…………… 20
本山佐利…………… 23

特集

蔵―時間がよどむ空間―
津南の郷蔵
蔵の存在と意義
蔵の保存を考える
蔵を記録する
中澤本家の民具調査を通して
田代桑原家文書の史料調査について
彷徨いの場
歴史を繋ぐ、人を繋ぐ―蔵カフェ―
私の「秋山記行」

小酒井大悟…………… 30
佐藤雅一…………… 42
佐藤信之…………… 46
志賀 駿…………… 50
宮脇竜成…………… 57
草山菜摘…………… 63
田附 勝…………… 69
ジャックマン秋山望…………… 72
池田友好…………… 84

レポート

昔の人の知恵と技

小学生の頃、冬になると父は出稼ぎに行き、男手は家に病気で体の不自由な祖父と私の二人でした。そのため、冬になると朝夕の隣の家までの約五〇mの道踏みは私の仕事でした。さすがに屋根の雪掘りは近所のおじいさんをお願いしていました。そのおじいさんは、主にコスキ（子どもの私はコシキと呼んでいた）を使っていました。リズムよく雪を切っては遠くに投げる姿は職人技に見え、憧れたことを今でも覚えています。そのコスキの柄には荒縄が一卷き縛ってありました。その意味は、実際に自分で使ってみて、切った雪が自分の方に滑り落ちないようにするための滑り止めであることが分かりました。

そして、初めて津南町に勤めた折、津南町歴史民俗資料館を訪れたとき、秋山郷に保存されていたコスキのコマやけずり台、様々なコスキの形を見て感動したことを覚えてます。さらに、『津南学』第七号に石澤貴司氏が「多雪地帯におけるコスキの記録」としてレポートを載せてくださっているのを知りました。その中に、コスキの製作方法

津南学 第11号

2023年3月31日 発行

編集 津南町教育委員会

発行者 木戸ひろし

発行元 ほおずき書籍株式会社
〒381-0012 長野市柳原2133-5
TEL (026) 244-0235(代)
web <http://www.hoozuki.co.jp/>

発売元 株式会社星雲社 (共同出版社・流通責任出版社)
〒112-0005 東京都文京区水道1-3-30
TEL (03) 3868-3275

- ・落丁・乱丁本は、発行元宛に御送付ください。
送料小社負担にてお取り替えいたします。
- ・本書は購入者による私的使用以外を目的とする複製・電子複製および第三者による同行為を固く禁じます。
- ・定価は表紙に表示

ISBN978-4-434-31858-0